

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来予測が困難な後期近代社会を生き抜くために、グローバルな視点で自らの周囲「50cm」で変革を起こす力を育成する。そのために新たな価値を創造する力、社会を生き抜く人間力、ダイバーシティを担う社会的包容力を養い、社会をリードする人材を輩出する学校をめざす。そのために次のような資質・能力を持った生徒を育てることと教職員集団をめざす。

1. めざすべき生徒像

「人・社会・世界」の発展に貢献する高い志を持ち、己を鍛える生徒

鍛える

幅広い教養（リベラル・アーツ）を身につけ、知性を磨き、新たな価値を創造する生徒

創造する

社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる生徒

繋がる

以上のことを実現するために、己の将来を描くことができる生徒

描く

2. めざすべき教職員集団

常に「生徒のために」の原点を忘れず、新たな教育課題に果敢に挑戦する教職員集団

果敢に挑戦する

互いに成長しあい、学びあい、切磋琢磨する教職員集団

切磋琢磨する

同僚性に富み、互いに支えあい、強みを活かし、弱みを克服する教職員集団

同僚性に富む

互いの役割分担を認め、多様な力を糾合するチーム力のある教職員集団

チーム力がある

2 中期的目標

1. 高い志を持って己を鍛える力の育成

(1) 思考し、探究する力の育成：1年『産業社会と人間』、2年『総合的な学習の時間』、3年『課題研究』を軸として探究的学習の体系化

卒業時の学校教育自己診断における「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」・「課題研究」への肯定的回答を全て、初年度80%以上とし、3年後には85%以上とする。

(2) 自尊心の醸成を促し、「自主自律」を基本に己を律する力の育成

遅刻者数の一層の低減を行い、初年度に3000回以下、3年後に2000回以下にする。(H30年度4961回)

卒業時の学校教育自己診断における「先生方は生徒の意見をよく聞いている。」「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。」の肯定感を初年度は平均以上、3年後には80%以上とする。

学校教育自己診断「今宮高校で人として成長したと思う」(3年)の肯定感を90.5%以上(H30年度)とし、この数値を維持する。

(3) 国連が提唱するSDGs・ユネスコスクールを「ジブンごと」化し、「50cm革命」を起こす力の育成：自治会を中心に、SDGsの17の目標のいずれかについて全校的な取組を推進

学校教育自己診断に「本校は、ユネスコスクール・SDGsを推進している」「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」の項目を、初年度は学校教育自己診断の平均以上、3年後に75%以上の肯定的評価にする。

2. 幅広い教養を身に付け、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学ぶ力を育成する。

(1) ICT活用、授業アンケート、研究授業、授業評価による教科チーム毎の授業力の向上を行い、進路実現に結びつく質の高い授業を生徒に提供する。

学校教育自己診断に「学ぶことの意味について考え、授業を大切にすることになった」を初年度70%以上、3年後には、80%以上の肯定的評価とし、「本校の学習だけで、進路達成に必要な力が身につく」を新設し、初年度は50%、3年後に70%以上の肯定的評価とする。

(2) 総合学科の特性を活かしたカリキュラム編成：大学進学を中心課題とし、社会と生徒・保護者の多様なニーズに応え、生徒の将来に資するカリキュラムの編成を行う。

卒業時の学校教育自己診断における「選択科目の内容は、全体的に見て期待通りであった。」の項目における肯定的回答を共に90%以上とする。

(3) 『考える力』、『まとめる力』、『伝える力』の育成：生徒が発表する機会・場の提供と生徒相互の取り組みへの支援・育成

今高生の主張、英語スピーチコンテスト、生徒自治活動、クラブ活動、サマーセミナー、野外スクーリングの実施

学校教育自己診断に「この学校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表することがよくあった。」を初年度は75%以上、3年後には85%以上の肯定的評価とする。

(4) 自らが学びへの高い志と意欲をもって学習に取り組む生徒の育成

卒業時の学校教育自己診断における生徒の「家庭学習をした」項目の肯定的評価を50%以上にし、3年後には70%以上とする。(H30年度41%)

(5) 4技能をバランスよく配した英語の授業の推進とそれぞれのレベルでの英語表現力の向上

英検準2級以上もしくは同等レベルの英語資格取得者が卒業生の50%以上を占める。

3. 社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる力を育成する。

(1) 国際感覚と国際交流力の育成：ユネスコスクール・SDGsに取り組み、多様な文化を理解する国際交流を促進する

海外姉妹校訪問（豪州・米国・台湾）、海外留学生・海外学校訪問受入れを行い、「本校は国際交流に力を入れている」「本校はユネスコスクール・SDGsの取り組みを推進している」を、初年度は学校教育自己診断の平均、3年後は80%以上の肯定的評価とする。

(2) 共生推進教室を中心に、「共に学び、共に育つ」インクルーシブ教育の推進を行う。

学校教育自己診断に「障がいがある人たちと『共に学び共に育つ』大切さを学ぶ機会があった。」の項目を、初年度は学校教育自己診断の平均、3年後には80%以上の肯定的評価とする。

(3) 小中学校、地域、地元自治体と連携した防災活動を充実させる。

学校教育自己診断に「本校では、地震や火災の際の対応は知らされている」の項目を、初年度は学校教育自己診断の平均、3年後には80%以上の肯定的評価とする。

(4) 社会に開かれた学校づくりを推進し、地域貢献を進める。

ア) ホームページの充実、学校説明会、中学校訪問の充実を図り、入試倍率を維持する。

<p>イ) 教養講座の充実と地域行事への参加を促進する。 学校教育自己診断に「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」の項目を、初年度は学校教育自己診断の平均、3年後には80%以上の肯定的評価とする。</p> <p>ウ) P T A、同窓会、後援会との連携の強化 学校教育自己診断「学校ではP T A活動は活発である」項目の肯定的評価を、H31年度65%以上に高める(H30年度60.4%)</p> <p>4. 高い志を持って、進路実現をするためのキャリア教育の充実</p> <p>(1) 高・大・社を意識した系統的なキャリア教育の充実を通じて、進路実現の意識の醸成を行う。 学校教育自己診断の進路関係の項目を初年度は70%以上、3年後には80%以上の肯定的評価とする。</p> <p>(2) 進路実現を可能にする学力の育成 センター試験において本校の平均を全国平均以上にする。</p> <p>(3) 国公立及び有名私大(関関同立産近甲龍・早慶上・MARCH)合格レベルの学力育成を支援する情報提供と学習指導の充実 京大阪大神大府大市大を含め国公立大学への合格者数が、初年度は15名以上、3年後には30名以上とする。 関関同立+近の合格者の合計が、初年度110名以上(H30年度107名)、3年後には140名以上とする。</p> <p>5. 教職員集団「チーム今宮」の育成</p> <p>(1) 将来構想委員会(仮)-カリマネ委員会-運営委員会の活性化を図り、高大接続改革など新たな教育課題に挑戦し、伝統校としての魅力を持つ高校に改革するために、互いに切磋琢磨する教職員集団の育成を行う。 学校教育自己診断に「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性を高め、協力して教育活動を行っている。」を新設し、初年度は過半数、3年後には70%以上の肯定的評価とする。 学校教育自己診断に「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」を新設し、初年度は過半数、3年後には70%以上の肯定的評価とする。</p> <p>(2) 教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。 初年度に学校教育自己診断の「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」を50%以上、「教え方を工夫するなど先生方は授業に熱心だった」を75%以上、毎年3ポイントずつ引き上げる。</p> <p>(3) 運営委員会の活性化、ベテランによるOJTにより、ミドルリーダーの育成、若手の力量向上を図る。 学校教育自己診断に「運営委員会は、十分に機能している」「本校は計画的に人材育成を行っている」を、初年度は過半数、3年後には70%以上の肯定的評価とする。</p> <p>(4) 仕事の平準化、合理化を推進し、「働き方改革」を行う。 平成30年度の超過勤務時間を越えず、平成33年には、超過勤務時間対平成30年度の90%以下にする。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>「今宮高校で学んでよかった」肯定的回答 87%、「今宮高校で学んで人として成長した」3年生の肯定的回答 87.7%、「総合学科の取り組みで、自分で考える力や自主性を伸ばすことができた」の肯定的回答が76%等、本校に学校の教育力があることを物語っている。また、「思考力・判断力・表現力等」については、「この学校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表することがよくあった」の肯定的回答が85%となっており、新しい学力の3要素に向けた教育が行われていると言える。</p> <p>さらに、進路指導においては、「自分の進路選択ができた」の肯定的回答が75.2%、「進路希望や選択科目の指導はきめ細かく、適切に行われた」の肯定的回答が81%、「大学について理解することができた」の肯定的回答が85.7%と高い評価を受けている。</p> <p>「自分は、ルールの遵守やマナーの向上に努めた」の肯定的回答が、81%となっており、多くの生徒が自主規制の精神を尊重し、遵守していることがわかる。</p>	<p>【6月8日第1回】 学校側から、総合学科の改革(「学ばなければならないことについてしっかり学ぶ」)のコンセプトを説明する。このことについて、「普通科への変更を考えているか」という質問があったが、学校側からは「普通科への変更は考えてない。現在進行中の高大接続改革においても、求められているのは総合学科が行っている探究的な内容であり、総合学科の時代が到来したと考えている」と回答した。そのほか、進学実績の重要性、アクティブラーニングの実施、探究学習の重要性の意見を頂戴した。</p> <p>【11月18日第2回】 学校側から進捗状況について説明を行った。委員からは、「新系列は私学志向を体現しており、中学生・保護者の私学への流れを考えると賛成である。今後は、この内容に見合う授業力の向上が求められる」という意見を頂いた。また、「生徒たちの自己実現のために、充実したキャリア教育は必ず実行していただきたい。『Think Globally, Act Locally』という考え方はこれからますます必要となる。そして、教員の関わり方がますます重要になってくる。地域としても生徒の皆さんを区内の様々な取り組みにつなげていきたい。」という地域連携・キャリア教育の重要性の意見を頂いた。</p> <p>【2月12日第3回】 学校運営協議会において学校教育自己診断に対する意見が出されたのは、以下の点である。第一に、24期生1年生の「毎日、家庭学習している」という問いに対する肯定的回答が、例年の30%前後から16.4%に下落した点である。この件について、学校として例年通りの学習指導を行っているにも関わらず、このような数値になってしまっていることに危機感を感じていることを議論した。中学校で塾を中心に学習指導を受けているので、主体的に学習するという力が十分に備わっていないのではないかという指摘を頂いた。第二に、探究学習の重要性と社会に目を向ける重要性である。社会の中にある課題に目を向けることで学びが促進され、その学びは大学・社会人となっても継続されていく学びとなる。私立高校では、NPOなどと連携して、社会に目を向けさせる教育実践が行われている。是非、今宮高校でも、そのような実践を行ってほしいという意見を頂いた。次年度の25期生からは、SDGsを1つの大きなテーマとして据えて、地域・NPO・NGOなどと連携した取り組みを行うことを報告した。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 高い志を持って己を鍛える力の育成</p>	<p>(1) 思考し、探究する力を育成 ア 「今宮志学」の再検討、体系化を行う。</p> <p>(2) 自尊感情の育成、自己を律する力の育成 ア 自己を律する力の育成 イ 自尊感情の育成</p> <p>ウ 生徒の人的成長の促進</p> <p>(3) SDGs への取組 ア 自治会を中心に17の目標のどれかに全校的に取り組む。</p>	<p>ア 「今宮志学」検討チームを立ち上げ、思考力・判断力・表現力等を育成する探究的学習要素を再検討し、体系化する。</p> <p>ア 遅刻に表れる生徒の生活習慣の改善 イ 教育相談活動の充実</p> <p>ウ 教育のあらゆる機会を捉えて、生徒の成長を促す</p> <p>ア 自治会執行部に SDGs の取組を考えさせ、全校的に取り組む課題を決めさせる。その例として「アフリカへの布ナプキンを送る」取組を紹介する。</p>	<p>ア 学校教育自己診断における「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」・「課題研究」への肯定的回答を全て80%以上とする。</p> <p>ア 遅刻総数を3,000回以下にする</p> <p>イ 学校教育自己診断「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。」の肯定感を、初年度は自己診断結果の平均以上にする。</p> <p>ウ 学校教育自己診断「本校に入学して人として成長したと思う」(3年)の肯定感を90.5%以上とする。</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校は、ユネスコスクール・SDGsを推進している」「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」の肯定感を学校教育自己診断の平均以上とする。</p>	<p>ア 学校教育自己診断の項目の肯定的回答が、1年生76.9%、2年生48.2%、3年生74.6%、全体は66.7%であった()</p> <p>ア 遅刻総数4,141回()</p> <p>イ ・ 学校教育自己診断の項目の肯定的回答が、「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」61.5%、() ・ 「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。」51.6%() (全体の肯定的回答の平均が68.5%)</p> <p>ウ 学校教育自己診断の項目の肯定的回答が、87.7%()</p> <p>ア ・ 学校教育自己診断の項目の肯定的回答が、「本校は、ユネスコスクール・SDGsを推進している」52.3%、() ・ 「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」60.4%() (全体の肯定的回答の平均が68.5%)</p>
<p>2 幅広い教養を身に付け、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学ぶ力を育成する</p>	<p>(1) 質の高い授業の提供 ア 授業アンケートの活用及び研究授業などの活性化</p> <p>(2) 総合学科の特性を活かしたカリキュラム編成 ア 自らの進路と連動させた科目選択指導 イ 新学習指導要領に向けたカリキュラム編成</p> <p>(3) 思考力・判断力・表現力等の育成 ア 「主体的・対話的で深い学び」の授業の促進 イ 生徒の発表する機会の確保とその支援</p>	<p>ア ・ 定量的授業アンケートに加え、生徒の自由記述による定性的アンケートを実施する。 ・ 各教科による研究授業、授業見学の促進</p> <p>ア 進路指導と科目選択指導を連動させた計画的な指導を行う。</p> <p>イ カリキュラム・マネジメント委員会において、教科横断型の視点に立ったカリキュラム編成を行う。</p> <p>ア 「主体的・対話的で、深い学び」の教職員研修を実施し、アクティブラーニング型授業の促進を行う。 イ 今高生の主張、英語スピーチコンテスト、生徒自治活動、クラブ活動、サマーセミナー、野外スクーリングの実施</p>	<p>ア ・ 学校教育自己診断「学ぶことの意味について考え、授業を大切にしようになった」を70%以上、「本校の授業・講習等だけで、進路達成に必要な学力が身につく」の肯定感を50%以上とする。</p> <p>ア 学校教育自己診断の「選択科目の内容は、全体的に見て期待通りであった。」の項目を3年生において90%以上とする。</p> <p>イ 平成31年度中に新学習指導要領に向けたカリキュラム編成を終える。</p> <p>ア・イ 学校教育自己診断「この学校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表することがよくあった。」の肯定感を75%以上にする。</p>	<p>ア ・ 「学ぶことの意味について考え、授業を大切にしようになった」の肯定的回答が71%() ・ 「本校の授業・講習等だけで、進路達成に必要な学力が身につく」が53%()</p> <p>ア 学校教育自己診断の項目の肯定的回答が68.9%()</p> <p>イ 新学習指導要領実施に向けて、新系列・コース制、授業時間の変更(45→50分)を令和元年9月に策定。また移行期に備えた令和2年度カリキュラム編成を10月に終了(○)</p> <p>ア・イ 学校教育自己診断の項目の肯定的回答が、84.6%()</p>

<p>2 幅広い教養を身に付け、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学び力を育成する。</p>	<p>(4) 学習習慣、家庭学習の定着 ア 週末課題の定着</p> <p>(5) 英語4技能習得の推進 ア 4技能をバランスよく配した英語授業の改革と民間検定試験の推進</p>	<p>ア ・1・2年次において国・数・英の週末課題を出し、高校での必須の勉強量の定着を図る。 ・自学イベントの実施(学習会・サマーセミナーとウィンターセミナーの開催) ・ポートフォリオノートを導入し、学習や学校生活に関する生徒のメタ認知を促進する。</p> <p>ア 英語授業において4技能をバランスよく配した授業の展開を行う。</p>	<p>ア・イ 学校教育自己診断「毎日学習した」の肯定感を50%とし、学校教育自己診断「部活動と勉強の両立ができた」の肯定感を学校教育自己診断肯定感の平均以上とする。</p> <p>ア 英検準2級以上もしくは同等レベルの英語資格取得者が卒業生の50%以上を占める</p>	<p>ア・イ ・ 学校教育自己診断の肯定的回答が、「毎日学習した」24.9%、() ・ 「部活動と勉強の両立ができた」58.4% () (全体の肯定的回答の平均が68.5%)</p> <p>ア 英検準2級以上もしくは同等レベルの資格取得者が150名で、半数以上を占める。()</p>
<p>3 社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる力を育成する。</p>	<p>(1) 国際感覚と国際交流力の育成 ア 海外姉妹校との交流</p> <p>(2) インクルーシブ教育の推進 ア 共生推進教室開設に向けた知的障がい生徒との交流の促進</p> <p>(3) 防災活動の促進 ア 地域の小中学校、地元住民と連携した防災訓練</p> <p>(4) 社会に開かれた学校づくり ア 広報活動の充実</p> <p>イ 教養講座の充実と地域行事への参加を促進</p> <p>ウ PTA、同窓会、後援会との連携の強化</p>	<p>ア 姉妹校等交流6回以上</p> <p>ア なにわ高等支援学校との自治会・クラブ・行事など交流の促進</p> <p>ア 小中学校、地元区民の防災計画を掌握する中で、連携のあり方を作成し、高校として防災に関してリーダーシップを発揮できるようにする。</p> <p>ア ・中学生参加行事の充実 ・オープンスクール・学校説明会・クラブフェスタ等の効率的な開催 ・クラブフェスタの開催 ・中学校・塾への効率的な訪問の実施</p> <p>イ 教養講座の定期開催</p> <p>ウ 年間行事について円滑な運営、連携に努める。</p>	<p>ア 学校教育自己診断「本校は国際交流に力を入れている」の肯定感を学校教育自己診断肯定感の平均以上とする。</p> <p>ア 学校教育自己診断「障がいがある人たちと「共に学び共に育つ」大切さを学ぶ機会があった。」の肯定感を学校教育自己診断肯定感の平均以上とする。</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」の肯定感を学校教育自己診断肯定感の平均以上とする。</p> <p>ア 前年度入試倍率を維持する。</p> <p>イ ・ 10講座以上の開催 ・ 学校教育自己診断「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」肯定感を学校教育自己診断肯定感の平均以上とする。</p> <p>ウ 「学校ではPTA活動は活発であったか」項目の肯定的評価を、H31年度65%以上に高める</p>	<p>ア 学校教育自己診断の肯定的回答が66.7% () (全体の肯定的回答の平均が68.5%)</p> <p>ア 学校教育自己診断の肯定的回答が60.7% () (全体の肯定的回答の平均が68.5%)</p> <p>ア 学校教育自己診断の肯定的回答が60.4% () (全体の肯定的回答の平均が68.5%)</p> <p>イ ・ 9講座開催。() ・ 学校教育自己診断の肯定的回答51% () (全体の肯定的回答の平均が68.5%)</p> <p>ウ 学校教育自己診断の肯定的69% ()</p>

<p>4 ・高い志を持って、進路実現をするためのキャリア教育の充実</p>	<p>(1) 系統的なキャリア教育の充実 ア 高・大・社のトランジションを意識したキャリア教育の充実</p> <p>(2) 進路実現を可能にする学力の育成 ア 講習の充実 イ 自学自習システムの導入</p> <p>(3) 進学実績の向上 ア 進学実績の向上</p>	<p>ア 3年間の進路指導、進路行事を見直し、「キャリアアンカー」を育てる科目選択指導と連動したキャリア教育の推進</p> <p>ア 進学講習の開催 イ 教育産業のVOD学習を希望者に導入</p> <p>ア 教育産業の模擬試験・学力学習実態調査・分析会などの活用を促進し、教職員の進路指導の力量の向上を図る。</p>	<p>ア 学校教育自己診断の進路関係の項目を70%以上にする。</p> <p>ア・イ センター試験において平均点以上を獲得する生徒数を平成31年度入試以上にする。</p> <p>ア ・学校教育自己診断の「自分の適性や進路について考えるようになり、進路希望が具体的に変わった。」の肯定感を75%以上、大学(どんな所か、何をしている所か、何を学ぶ所か、など)について理解することができた。」の肯定感を85%以上とする。 ・国公立15名以上 関関同立+近の合格数110名以上</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分は、この1年間、今宮総合学科で学んで、自分の進路選択ができた。」75.2%()、「大学について理解することができた。」85.7%() 「働くことの意味や職業について考え、理解が深まった。」79.7%() 「自分の適性や進路について考えるようになり、進路希望が具体的に変わった。」75.9%() センター試験平均点以上の生徒数267人、平成31年度入試では336人(7クラス)。6クラス規模に換算しても約7.9%減。() <p>ア 「自分の適性や進路について考えるようになり、進路希望が具体的に変わった。」75.9%。「大学について理解することができた。」85.7%。()</p> <ul style="list-style-type: none"> 国公立大24名、関関同立+近の合格者数138名()
<p>5 ・教職員集団「チーム今宮」の育成</p>	<p>(1) 切磋琢磨する教職員集団の育成 ア 学校経営計画を意識した教育活動の推進</p> <p>(2) 教職員の授業力・キャリア教育力の向上 ア 授業力の向上 イ キャリア教育の向上</p> <p>(3) 運営委員会の活性化、ミドルリーダーの育成など ア 教職員の力量の向上</p> <p>(4) 「働き方改革」の促進 ア 仕事の平準化・合理化の促進</p>	<p>ア 高大接続改革・新学習指導要領・共生推進教室の設置など、新たな教育課題に対して、学校経営計画を意識し、切磋琢磨する教職員集団の育成</p> <p>ア 授業アンケート及び自由記述結果を活用した教科での検討会の実施。</p> <p>イ 高・大・社のトランジションを意識し、「イベント主義」に陥らない系統的で計画的なキャリア教育を推進する教職員集団の育成</p> <p>ア 運営委員会の議論の活性化、OJTの推進、若手教員の勉強会を推進し、教職員の力量向上を図る。</p> <p>ア 教材の共有化、仕事の平準化の促進。学校業務も見直しの促進</p>	<p>ア 学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」を50%以上にする。</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」を50%以上、「先生方は、教え方に工夫をするなど授業に熱心だった。」を75%以上とする。</p> <p>イ 学校教育自己診断「働くことの意味や職業について考え、理解が深まった。」「大学について理解することができた。」を80%以上にする。</p> <p>ア 学校教育自己診断「運営委員会は、十分に機能している」「本校は計画的に人材育成を行っている」を50%以上にする。</p> <p>ア 平成30年度の超過勤務時間以下にする。</p>	<p>ア 学校教育自己診断の肯定的回答</p> <ul style="list-style-type: none"> 「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」28.6%() 「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」35.7%() <p>ア 学校教育自己診断の肯定的回答</p> <ul style="list-style-type: none"> 「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」53%、() 「先生方は、教え方に工夫をするなど授業に熱心だった。」69.2%() <p>イ 学校教育自己診断の肯定的回答</p> <ul style="list-style-type: none"> 「働くことの意味や職業について考え、理解が深まった。」79.7%、() 「大学について理解することができた。」85.7%() <p>ア 学校教育自己診断の肯定的回答</p> <ul style="list-style-type: none"> 「運営委員会は、十分に機能している」46.4%() 「本校は計画的に人材育成を行っている」10.7%() <p>ア 令和元年度は12月段階で時間外勤務が、前年度の92%()</p>